

講義コード	1BD0850001
講義名称	マーケティング分析 <秋>
科目英文名	Marketing Analytics
開講責任部署	ビジネスデザイン学部 ビジネスデザイン学科
代表ナンバリングコード	BUSA2870
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 5 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名	オフィスアワー	メールアドレス	研究室
◎ 川上 和真	月曜日2限	kawakami@andrew.ac.jp	あべのBDL聖テモテ館7H

授業形態	講義	アクティブラーニング	グループワーク
	パソコン実習		

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)

講義・演習概要	<p>世の中には様々なデータが存在し、効果的なデータ分析は企業・組織の競争優位に直結する。効果的なマーケティングには、顧客に対する理解が必要であり、調査・分析の実践的能力が求められる。そのためには、データ科学や統計的手法の基礎知識を学習するだけでなく、どのような方法を採用すればよいか、導出した結果をどのように解釈して意思決定するかという点も重要となる。よって、講義ではデータを分析するだけでなく、ディスカッションを通じてマーケティング分析の理解を深めていく。</p> <p>なお、本講義のデータ分析には、Googleが提供するクラウド・ベースのPython実行環境であるGoogle Colaboratoryを使用する予定である。</p>
学習（到達）目標	<p>マーケティング・リサーチの基礎知識と実践的能力を育成し、経営事象の本質についてデータを通じて洞察する能力を養うため、次の目標を設定する。</p> <p>(1)マーケティング・リサーチに関わる概念や理論、統計学的手法が理解できる。</p> <p>(2)データを的確に分析し、データの結果を評価・考察できる。</p> <p>(3)考察した内容を他者に伝達できる。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	【対面】オリエンテーション、イントロダクション
第2回	【対面】マーケティング分析の楽しさと手順 (事前に教科書の第1章を読んでおくこと)
第3回	【対面】データの収集方法 (事前に教科書の第14章を読んでおくこと。)
第4回	【対面】データの可視化 (事前に教科書の第2, 3, 4章を読んでおくこと)
第5回	【対面】データの可視化 (事前に教科書の第2, 3, 4章を再読しておくこと)
第6回	【対面】相関分析 (事前に教科書の第5, 6, 7章を読んでおくこと)
第7回	【対面】相関分析 (事前に教科書の第5, 6, 7章を再読しておくこと)
第8回	【対面】平均値の差の検定 (事前に教科書の第8, 9, 10章を読んでおくこと)
第9回	【対面】平均値の差の検定 (事前に教科書の第8, 9, 10章を再読しておくこと)
第10回	【対面】回帰分析 (事前に教科書の第11, 12章を読んでおくこと)

第11回	【対面】 回帰分析 (事前に教科書の第13章を読んでおくこと)
第12回	【対面】 回帰分析 (事前に教科書の第13章を再読しておくこと)
第13回	【対面】 多変量解析
第14回	【対面】 多変量解析
第15回	【対面】 総括 (講義全体の仕上げ) (事前に教科書の全体を振り返っておくこと)

成績評価の方法 (割合)

「成績評価の方法 (コメント)」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法 (コメント)	成績評価は、レポート課題の内容および、それに関する発表・コメント等の講義内学修活動への取り組み状況を総合的に勘案して行う。 なお、欠席回数が4回以上の場合、学修成果の評価が困難となるため、単位を認定しないことがある。
----------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	古川一郎, 上原渉 (編著)	1からのデータ分析		978-4502436413	碩学舎	

参考文献	特に指定しない。必要に応じて、授業内で適宜紹介する。
事前および事後学習の指示	【事前および事後学習の指示 (事前学習 各回1.5時間 ・事後学習 各回1.5時間)】 (1) 事前学習として、毎回の講義テーマについて、教科書やインターネットを利用して、用語や内容を調べておくこと。 (2) 事後学習として、講義を振り返ること。翌週講義までの課題がある場合、講義時間内か講義直後に提示する。
その他備考 (担当教員用)	各回詳細内容は第1回に説明するので欠席しないこと。講義計画は予定であり、各クラスの状態を踏まえて、より効果が期待できるように内容や講義形態を変更する場合がある。 本講義のデータ分析には、Googleが提供するクラウド・ベースのPython実行環境であるGoogle Colaboratoryを使用する予定である。